

宇都宮短期大学令和6年度卒業生への聴き取り調査結果

1. 目的 本学科の卒業生について、須賀学園の建学の精神である「全人教育」に基づいた教育や各学科の学習成果が現在の就職、進学先でどう役立っているのか等を調査することで今後の教育・研究活動の参考にすることを目的とする。

2. 実施日 令和6年11月16・17日(大学祭当日)

3. 調査方法 彩音祭の受付にて聴き取り調査の依頼書を配付し、専任教員との対面時にGoogle formでのアンケートの回答をお願いした。

4. 聴き取り調査結果 ※自由記述は一部抜粋

【音楽科】

1. 回答者 16名(音楽関係12名、一般企業3名、その他1名)

2. 質問項目と結果

(質問1) 音楽科の学習成果に対して、現在できているかどうか

音楽科の学習成果

- ・自己および他者を理解でき、自立・自律した生活の知識・技術を身につけている。
- ・基礎的な理論と表現力により、感情豊かな演奏ができる。
- ・演奏技術を修得する教育課程により、公開の場で演奏する基礎を身につけている。

1) 「現在の仕事(学業)は充実している」

- ①充実している：6 ②どちらかといえば充実している：8 ③あまり充実していない：2
④充実していない：0

2) 「学校で身につけた知識・技術を活かして業務(学業)ができている」

- ①できている：9 ②まあできている：3 ③あまりできていない：2 ④できていない：2

3) 「職場の上司や同僚、後輩に対して、配慮しながら行動できている」

- ①できている：7 ②まあできている：9 ③あまりできていない：0 ④できていない：0

4) 「現在の仕事(学業)や生活で、資格(各種グレードや検定も含む)を役立てている」

- ①役立てている：5 ②どちらかといえば役立てている：6 ③あまり役立てていない：0
④役立てていない：5

(質問2) 就職(進学)した当初、戸惑ったこと

- ・一般常識
- ・保護者とのコミュニケーション
- ・音楽に関すること以外の業務が非常に多いこと
- ・インターンなどの経験がないまま、社会人になったことへの変化、早番と遅番の交代勤務体制に体力がついていけなかった
- ・進学を機に一人暮らしをしたので、生活と練習の両立が大変だった 等

(質問3) 本学への要望

- ・発表会にホールを簡単な手続きでお借りできたらうれしい

- ・演奏機会の確保、学校における音楽の部活動での演奏指導(特別講師の派遣)
- ・音楽実技に関する指導法の学び直し
- ・職種にもよるが、教員としての在り方やアドバイスがあると心強い

(質問 4) 後輩へのアドバイス

- ・卒業後どのような職に就くことになっても、学友やお世話になった先生たちとの温かい関係は自分の支えになる。学業や練習が大変であっても周りの人との縁を大切に、学生生活を楽しむことをお勧めしたい
- ・音楽に関する仕事に必要な力として、自分の専攻分野だけでなく、音楽の教科書の伴奏を弾くのに支障ない程度のピアノの技量、音学理論、指揮法、呼吸法、発声法、音楽史と一般的な歴史を関連付けた知識、古文を含む国語の知識、基礎的な外国語を理解する力は必須であると考え、学業に取り組んでいただきたい 等

3. 学生の卒後評価に係る卒業生への聴き取り調査を通して

学習成果の項目では、多くの卒業生が「できている」「まあできている」と評価しており、学習成果を卒業後に活かしている様子が見えてきた。就職(進学)当時戸惑ったこととしては、保護者とのコミュニケーションの取り方や一般常識があげられた。後輩へのアドバイスとしては、自分の専門分野だけではなく音楽の仕事に必要な能力(弾き歌いや音楽理論、基礎的な国語、外国語)や言語力の必要性が寄せられた。本学への要望として、卒業後も本学からの継続した支援を求めている、相談に対応できる体制づくりやリカレント教育等の広報活動が必要であると感じられた。卒業生からの貴重な意見を有効活用できるよう、本結果を教員間で共有し、教育の質の向上を図っていきたい。

【人間福祉学科】

1. 回答者 28 名(社会福祉専攻 14 名、介護福祉専攻 14 名)

2. 質問項目と結果

(質問 1) 人間福祉学科の学習成果に対して、現在できているかどうか

人間福祉学科の学習成果

- ・自己および他者を理解でき、自立・自律した生活の知識・技術を身につけている。
- ・福祉の基本的な知識・技術・方法を身につけている。
- ・社会福祉士を目指す学生は、ソーシャルワーカーに係わる専門的知識・技術・方法を身につけている。
- ・医療事務従事を目指す学生は、医療事務に係わる専門的知識・技術・方法を身につけている。
- ・介護福祉に係わる専門的知識・技術・方法を身につけている。
- ・人間尊重の精神と豊かな人間性を身につけている。

1) 「自分の身のまわりのことができている」

①できている：13 ②まあできている：12 ③一部は家族任せ：2 ④すべて家族任せ：1

2) 「学校で身につけた知識・技術を生かして業務を行うことができている」

①できている：14 ②まあできている：10 ③あまりできていない：1 ④できていない：3

3) 「職場の上司や同僚に対して、配慮しながら行動できている」

①できている：18 ②まあできている：6 ③あまりできていない：3 ④できていない：1

4) 「サービス利用者を理解し、配慮しながら行動できている」

①できている：14 ②まあできている：12 ③あまりできていない：0 ④できていない：2

(質問 2) 就職した当初、戸惑ったこと

- ・ 社会人としての振る舞い、電話対応、コミュニケーションなど
- ・ 利用者と職員、両方の人間関係に悩んだ
- ・ 理想と現実との違い
- ・ 認知症の方への対応 等

(質問 3) 本学への要望

- ・ 就職希望者がいたら紹介していただきたい
- ・ 交流の機会
- ・ 授業をしたい
- ・ 先生方といろいろと話をしたい

(質問 4) 後輩へのアドバイス

- ・ 実習で学んだことがとても役立ってくる
- ・ 全てが学んだ通りにはいかないので、臨機応変に対応できる力をつけることが大切である
- ・ 就職活動は早めにした方がよい
- ・ 求人情報をよく確認して就職先を決めたほうがよい

3. 学生の卒後評価に係る卒業生への聴き取り調査を通して

本学科の学習成果の達成については、概ね「できている」「まあできている」という回答であった。質問 2 の就職時に関する自由記述に関しては、就職対策講座や就職ガイダンスで、求人票に関する知識や人事担当者・専門職の講話で業務への理解に関する内容も行っている。また、適宜、担任が個々へのサポートを行っている。質問 3, 4 の自由記述にあるリカレントについても、例年、卒業生を対象としたリカレント講座を実施している。今年度も、令和 6 年 3 月にキャリア継続内容や交流の機会につながる講座を開催した。

上記、卒業生からの意見は、学科内で共有して学生に伝えていきたい。

【食物栄養学科】

1. 回答者 24 名(医療機関 4 名、福祉 11 名、一般企業 4 名、進学 3 名、その他 2 名)

2. 聴き取り調査結果

(質問 1) 食物栄養学科の学習成果に対して、現在できているかどうか

食物栄養学科の学習成果

- ・ 広い教養を身につけ、自立・自律した生活者としての行動規範を身につけている。
- ・ 豊かな人間性と感性をもち、食に係わる基本的な知識・技術・方法を身につけている。
- ・ 人間尊重の精神と、食に係わる専門的な知識・技術・方法等を身につけている。
- ・ 倫理性をもった栄養士として、地域や社会の福祉に貢献できる能力を身につけている。

1) 「自分の身のまわりのことができている」

①できている：9 ②まあできている：11 ③一部は家族任せ：3 ④すべ家族任せ：1

2) 「学校で身につけた知識・技術を活かして業務を行うことができている」

①できている：9 ②まあできている：14 ③あまりできていない：1 ④できていない：0

3) 「職場の上司や同僚に対して、配慮しながら行動できている」

①できている：14 ②まあできている：9 ③あまりできていない：1 ④できていない：0

4) 「サービス利用者を理解し、配慮しながら行動できている」

①できている：13 ②まあできている：11 ③あまりできていない：0 ④できていない：0

(質問 2) 就職(進学)した当初、戸惑ったこと

- ・ 早番と遅番の交代勤務制に体力がついていけなかった等の体力面のこと (6 名)
- ・ 人間関係について (4 名)
- ・ 覚えることが多かったこと (3 名)
- ・ 保存食の取り方について (2 名)
- ・ 業務の流れについて ・ 調理工程について ・ 書類の作成業務が多いこと 等

(質問 3) 本学への要望

- ・ 管理栄養士国家試験対策講座 (2 名)
- ・ 卒業生同士の調理実習があるとよい
- ・ 分からないことを聞ける質問フォームがあるとよい

(質問 4) 後輩へのアドバイス

- ・ 授業で習っていても、実際に仕事とするとと思うように出来ない事があるので、しっかりと習ったことを復習しておく
- ・ 食物アレルギーについて書類の見方などを勉強しておく
- ・ 調理技術を高めておく
- ・ 先輩への言葉遣いなどを今のうちから身につけておいた方がいいと思う 等

3. 学生の卒後評価に係る卒業生への聴き取り調査を通して

学習成果の項目では、多くの卒業生が「できている」「まあできている」と評価しており、成果を卒業後に活かしている様子がうかがえた。就職進学当初戸惑ったこととしては、予想以上に体力が必要だったこと、具体的な後輩へのアドバイスとしては、勉強や復習の必要性、調理技術の錬磨、コミュニケーション能力の醸成等が複数名からあげられた。

これらは、今年度夏期(7～8月)に実施した卒業生の就職先からの聴き取り調査結果とも一致しており、栄養士としての実践的な能力や体力を在学中に身につけられるよう、工夫した授業作りや適切な指導・助言が必要であると考えられた。

以上